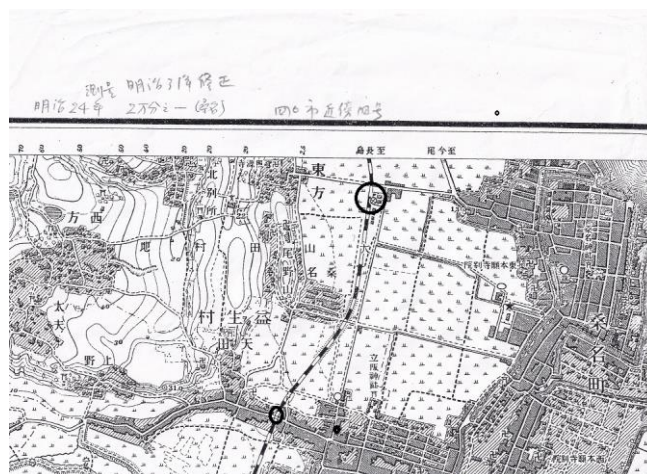


関西鉄道 ④ 桑名仮駅まで開通

西羽 晃

明治23（1890）年12月25日に関西鉄道は草津から四日市までが開通した。さらに桑名までの延長路線の測量には、西富田の村民が反対しており、同26年5月23日には、村民一同が蜂起して測量を妨害している。しかし、同年6月には四日市・桑名間の土地買収は完了したようである。

明治27年7月4日に桑名仮駅までの開通式が挙行された。仮駅は益生付近で、現在は北勢線と交差している処である。なぜ仮駅で開業したのか、はっきりしないが、以降の路線の選定が遅れなのであろうと思われる。また当時の石取祭は7月6～7日だったので、それに間に合うように急いだかもしれない。



明治24年測量、同31年修正
上の○が桑名駅 下の○が桑名仮駅

仮駅だったが、開通式は華々しく行われた。当日草津を発車した列車は来賓客などを載せて、11時過ぎに四日市を発車した。中央の車両に乗り込んだ神戸音楽隊が音楽を奏で、沿道には見物人が溢れた。

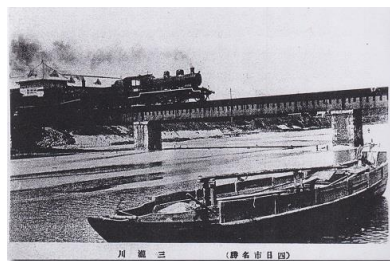
富田駅を経て、11時30分桑名仮駅に到着した。駅前には人力車が200輛ばか

り待ち受けて、200 人ほどの来賓客は船馬町の船津屋に 12 時過ぎに到着した。そして関西鉄道の白石社長の挨拶があり、君が代の奏楽、万歳三唱があつて、宴会が始まった。四日市から 26 人、桑名から 30 人の芸者が参加して接待した。3 時に終宴となり、来賓客は 3 時 50 分発の列車で帰途についたが、一部の客は石取祭を見ようと宿泊した（明治 27 年 7 月 6 日付『伊勢新聞』）。

桑名仮駅は東海道にも近く、濃州道（員弁街道）に接して、交通の便利なところだった。仮駅なので単線のホームしかなかったと思われるし、機関車の方向転換も出来ないなので、前方と後方に機関車を繋いでいたのかもしれない。



『伊勢新聞』
（明治 27.07.04 付）



三滝川橋梁（年代不詳）
（『三重県絵はがき集成』より）



現在も一部が残るレンガ積み土台
（安永宮西町）

開通式の翌日、即ち明治 27 年 7 月 5 日から営業運転が開始された。午前 4 時 40 分四日市始発の列車は、4 時 50 分に富田を発車し、5 時 04 分に桑名仮駅に到着した。その列車は折り返し、5 時 25 分に桑名仮駅を発車し、富田・四日市亀山を經由して草津に 9 時 10 分に到着している。以後 8 時 25 分、13 時 20 分、16 時 10 分（いずれも草津行）、18 時 45 分（津行）、20 時 00 分（四日市行）と桑名仮駅を発車し、1 日に 6 本の発着だった。鉄道が桑名まで開通したので、北勢汽船会社では桑名一熱田間の渡船を 1 日 2 往復に増便している。